



潤心啓発

令和8年1月20日
青梅市立泉中学校
学校だより第43号
校長 神田 哲男

泉中HP <https://www.city.ome.tokyo.jp/site/izumi-j/>



「教育活動に関するアンケート」の結果について

12月の「教育活動に関するアンケート」に御協力いただき、誠にありがとうございました。同時期に全校生徒を対象にとった「学校生活に関するアンケート」の結果とできるだけ比較できるように掲載しました。双方とも①「当てはまる」②「やや当てはまる」③「やや当てはまらない」④「当てはまらない」⑤「わからない」の5段階で評価をお願いしました。今回は、肯定的な回答と否定的な回答の二つに分け、⑤「わからない」は掲載しませんでした。

なお新は新しく入れた質問であり、()内は昨年度との比較数値です。

1 学力向上に関する項目

① 全ての学習の基盤となる資質・能力の育成

生徒質問：「泉中の授業は、協同学習(ペアワークや4人組)を行っていると思う」

保護者質問：「学校は互いに認め合う心を育むため、授業をはじめ全ての教育活動を通じ、ペアワークや4人組など互いに寄り添う指導の充実を図っている。」

	そう思う・どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない・思わない
生徒	95.9%(+0.2%)	4.1%(-0.2%)
保護者	72.9%(+3.6%)	6.2%(+2.2%)

生徒質問：「授業中、他の生徒の発言や発表をよく聞いている。」

保護者質問：「学校は授業規律を徹底し、安心して授業が受けられ、考える楽しさ・学ぶ楽しさを実感させる授業の工夫・改善に努めている。」

	そう思う・どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない・思わない
生徒	95.5%(+2.3%)	4.1%(-2.7%)
保護者	71.8%(+3.8%)	12.4%(-5%)

◆ 本校では、「傾聴」を中心とした言葉の指導を行っている。これは教師だけでなく生徒も同様で、授業では学び合いの授業「協同学習」を中心に行うことで、「聞き合う関係」づくりから、だれ一人取り残さない学びを目指している。保護者にも見てわかるような、「聞く」ことを重視した生徒に寄り添う指導や授業改善を徹底する必要がある。

② 主体的・対話的で深い学びの追究

生徒質問：新「授業中の班活動で、積極的に意見を出したり、分からぬところを聞いたりして参加している。」

保護者質問①：「授業を通して、それぞれの課題に対し、解決に向け主体的に学ぶ姿勢を育んでいる。」

保護者質問②：「学校は総合的な学習の時間(調べ学習・発表)や体験活動(校外学習・移動教室・職場体験・働く人の話を伺う会・高校の先生の話を伺う会・宿泊行事等を通して、自分の生き方を考えるキャリア教育の充実を図っている。」

	そう思う・どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない・思わない
生徒	82.8%	16.2%
保護者①	71.2%(+1.9%)	10.2%(-1.8%)
保護者②	90.4%(+5.1%)	4%(-4%)

- ◆ 本校が「協同学習」について研鑽を積んでから7年目になる。全教員が学期に1回の管理職による授業観察や教師がお互いに見合う年間1回の研究授業で研修を行い、「協同学習」を通じて生徒が主体的に考えを深めたり広げたりする授業改善を進めている。またこれを生かしてキャリア教育につなげている。徐々に協同学習の成果が表れているので、継続していきたい。

③ 校内研究の成果検証（生徒への質問）

質問①：「泉中の授業は、協同学習（ペアワークや4人組）を行っていると思う。」

80%以上行っている	50%以上行っている	25%以上行っている	25%未満である
50.3%(-10.7%)	45.5%(+10.8%)	2.9%(-0.2%)	1.3%(+0.1%)

質問②：「泉中の授業では、課題や活動に取り組んで「できた」「分かった」と感じるような工夫をしている。」

80%以上行っている	50%以上行っている	25%以上行っている	25%未満である
45.5%(-2.2%)	47.8%(+3.3%)	5.7%(-1.8%)	1.0%(+0.7%)

質問③：「泉中の授業では、前の時間までに学習した内容と結び付けて考える時間があると思う。」

80%以上行っている	50%以上行っている	25%以上行っている	25%未満である
46.8%(-8.1%)	46.5%(+8.2%)	6.1%(-0.4%)	0.6%(-1.0%)

質問④：「泉中の授業では、他の教科の授業で学習した内容を生かして考える時間があると思う。」

80%以上行っている	50%以上行っている	25%以上行っている	25%未満である
35.7%(-0.1%)	43.3%(-3.8%)	17.2%(+3.2%)	3.8%(+0.7%)

質問⑤：「泉中の授業では、他の人と考えを交流しながら課題を解決する活動を行っていると思う。」

80%以上行っている	50%以上行っている	25%以上行っている	25%未満である
58.0%(-9.0%)	37.6%(+9.5%)	3.5%(-0.2%)	0.9%(-0.3%)

質問⑥：「泉中の授業では、生徒が理解したことや考えたことを他の生徒や先生に説明する時間があると思う。」

80%以上行っている	50%以上行っている	25%以上行っている	25%未満である
45.9%(+1.3%)	41.7%(-2.8%)	8.6%(+0.8%)	3.8%(+0.7%)

質問⑦：「泉中の授業では、学習した内容をどのように振り返ったらよいかを、教えてくれていると思う。」

80%以上行っている	50%以上行っている	25%以上行っている	25%未満である
35.0%(-1.8%)	46.8%(+2.6%)	13.1%(-2.2%)	5.1%(+1.4%)

質問⑧：「泉中の授業では、PC、タブレットや電子黒板、書画カメラなどのICT機器を活用されていると思う。」

80%以上行っている	50%以上行っている	25%以上行っている	25%未満である
66.2%(-4.9%)	28.7%(+3.5%)	3.2%(+0.4%)	1.9%(+1.0%)

質問⑨：「泉中の授業では、生徒が自分の考えを発表する場面で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立ての仕方などを教えてもらっていると思う。」

80%以上行っている	50%以上行っている	25%以上行っている	25%未満である
42.7%(+0.3%)	46.5%(+1.3%)	6.7%(-2.6%)	4.1%(+1.0%)

質問⑩：「授業や学級活動、委員会活動、部活動などで、生徒が話し合いを生かし、互いのよさを生かして解決方法を決める場面があると思う。」

80%以上行っている	50%以上行っている	25%以上行っている	25%未満である
58.3%(+0.6%)	36.3%(+2.7%)	3.8%(-2.1%)	1.6%(-1.2%)

- ◆ 本校では、昨年度から2年間で、青梅市研究指定校として研究を行っている。学力向上委員会では、「習得⇒探究⇒発信」の流れのある授業計画に沿って授業を行っている。特に発信では『学習の質を高める3つの内言』として「①他に考え方はないか」「②本当にこれでよいか」「③分かりやすいか」を基に発信内容を考えている。昨年と比較するとさらに「習得」「探究」からさらに「発信」を意識して指導してきたため「発信」に対する教師の技量が上がってきた成果であると考える。

4 学習習慣の確立

生徒質問①：「学校の授業の復習をしている。」

生徒質問②：「自ら計画をたてて勉強している。」

保護者質問：「保護者としてお子さんの家庭学習に強く関心をもち進路実現に向け積極的に関わっている。」

	そう思う・どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない・思わない
生徒①	52.9%(+8.4%)	45.9%(-9.6%)
生徒②	60.5%(+7.3%)	38.2%(-8.5%)
保護者	87.6(+1%)	9.6%(-1.1%)

生徒：「あなたは平日、平均何時間くらい家庭学習をしていますか」(塾や補習での学習時間は含めない。)

	2時間以上	1～2時間	30分～1時間	30分未満	全くしない
生徒	8.0%(+0.5%)	18.5%(+7.0%)	29.0%(+1.3%)	27.1%(-0.3%)	17.5%(-9%)

- ◆ 自ら計画的に行う家庭学習が本校の大きな課題である。しかし昨年と比較しても自学自習ができる雰囲気になってきている。タブレットを活用したスタディサプリの効果は大きいと考える。適度な宿題の質と量の調整をするとなど、生徒の家庭学習の習慣化を目指し、また生徒が取組の成果をより一層実感できるよう今後とも工夫を重ねていく。

2 健全育成に関する項目

1 いじめ問題への対応

生徒質問：「学校へ行くのが楽しい。」

保護者質問：「学校はいじめ調査を定期的に行うとともに、日々の生活の変化を把握し、いじめや悩みの早期発見、早期対応を図っている。」

	そう思う・どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない・思わない
生徒	81.4%(+0.6%)	18.3%(-0.9%)
保護者	60.5%(-6.1%)	12.4%(+1.7%)

生徒質問：新「友達の相談を親身になって聞くことができる。」

保護者質問①：「学校は生徒指導に対して、関係諸機関と連携し組織的な対応や指導を行っている。」

保護者質問②：「学校は生徒指導に対して、生徒への聞き取り及び対応・指導を早期に適切に行っている。」

保護者質問③：「学校は交流教育(学校行事や昼休みなどの支援学級との交流活動)を通して互いの違いを認め合う活動の充実を図っている。」

	そう思う・どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない・思わない
生徒	94.3%	5.3%
保護者①	56.5%(+7.2%)	9%(+1%)
保護者②	69.5%(-5.2%)	13.6%(-1%)
保護者③	76.3%(-2.4%)	7.3%(-0.7%)

- ◆ 「学校に行くのが楽しい」の数値を100%になるようにしたい。安心して学校に通えるために、「いじめを起こさせない環境づくり」である。そのために一番大切にしていることは「未然防止」であり、いじめを生まない自己有用感の醸成と考えて実践している。このことを発信し保護者と共にする必要がある。友達の相談を親身に聞こうとする姿勢が高いのは大変に心強いことである。

- ◆ 泉中相談BOXの活用をはじめ、休み時間の教師と生徒との対話の促進や、「相談しやすい・話しやすい雰囲気づくり」により人間関係を深めていく。

2 不登校に対する取り組み

生徒質問①：新「私には、自分を理解してくれる人がいる。」

生徒質問②：新「私は人と同じくらい価値のある人間である。」

保護者質問①：「学校はスクールカウンセラー等と連携し、1年生全員面談による早期発見や不登校を含めた配慮を要する生徒への対応・指導をきめ細かく行っている。」

保護者質問②：「学校は適宜、保護者・地域に情報を発信し、学校の様子を伝える努力をしている。」

	そう思う・どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない・思わない
生徒①	91.1%	8.5%
生徒②	85.8%	13.9%
保護者①	62.7%(-3.9%)	7.3%(+6%)
保護者②	96.0%(+4%)	1.7%(-4.9%)

- ◆ 不登校は、自信がもてず環境に適応できないことに起因する場合が多い。よって、良さを認め、ほめることにより、個々の生徒の自信を高め、内面の成長を促すことに指導の重点を置いている。自己有用感は、変化の激しい社会の中で自分のよさを生かして挑戦をする源となる。また、自殺や引きこもりを防止する上でも重要である。今回の結果によると、自己有用感が85%を超えたことはうれしい結果であった。引き続き生徒が活躍できる場を積極的に作りたい。

③ 社会において自律的に生きる力の育成

《自己有用感の醸成》

生徒質問①：「清掃や給食当番などの日常の班活動、行事などに積極的に取り組んでいる。」

生徒質問②：「自ら進んで挨拶をしている。」

保護者質問①：新「生徒は校内外問わず挨拶ができる。」

保護者質問②：新「教職員は校内外問わず挨拶ができる。」

保護者質問②：「学校は清掃活動や地域メッセンジャー等のボランティア活動を積極的に行っている。」

	そう思う・どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない・思わない
生徒①	93.9%(-2.1%)	5.4%(+1.4%)
生徒②	89.2%(+0.4%)	10.2%(-1.0%)
保護者①	72.3%	5.4%
保護者②	81.9%	5.1%
保護者③	88.1%(+22.7%)	2.8%(-11.9%)

- ◆ 挨拶について保護者の結果は低調である。日頃あまり慣れていない人への挨拶や自ら率先して掃除分担を考えて行動はまだまだであると考える。教職員の挨拶ももっと高めていかなければいけない。率先垂範する姿を見せてことで、生徒に社会に出て通用する力をつけていきたい。

《規範意識の醸成》

生徒質問：新「宿題や提出物は期限までに提出するように心がけている。」

保護者質問：「学校はセーフティ教室や日常の指導を通して、情報端末の正しい使用法や交通安全・薬物乱用防止など社会規範の徹底や防災意識の向上を図っている。」

	そう思う・どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない・思わない
生徒	91.7%	7.6%
保護者	91.0%(-1%)	2.8%(+0.1%)

生徒質問①：「身だしなみや、不要物をもってこないなど学校のきまりを守っている。」

生徒質問②：新「靴を揃えて脱いだり、下駄箱にかかとを揃えて入れることができる。」

保護者質問①：「保護者として、お子さんの家庭での生活習慣(望ましい行動様式)の確立に、積極的に関わっている。」

保護者質問②：「学校は日数や内容など適切に部活動指導を行っている。」

	そう思う・どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない・思わない
生徒①	95.9%(+2.3%)	3.5%(-2.7%)
生徒②	91.8%	7.9%
保護者①	91.0%(+4.4%)	9.6%(-1.1%)
保護者②	71.8%(-2.9%)	11.9%(+10.6%)

- ◆ 生徒の規範意識は徐々に上がってきている。これは学校の粘り強く継続的な指導はもちろんのこと、家庭の御協力があつての賜物である。正しいことを堂々とすることの大切さを浸透させ、社会に出て通用する力の育成を目指したい。